

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473301008	事業の開始年月日	平成17年12月1日	
		指定年月日	平成17年12月1日	
法人名	有限会社 真全			
事業所名	グループホーム まっとう			
所在地	(〒226-0026) 神奈川県横浜市緑区長津田町2365番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年9月14日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四方緑に囲まれた中に、山小屋風の避暑地を思わせるような建物で、鳥の声で、朝を迎えます。来られたお客様方が、故郷に帰ったようで、落ち着くと言われます。四季折々の花が、ボランティアさんの手で植えられ、野菜や果物を取りに行ったり、その日のうちに、食事に利用し収穫の喜びを持ち、楽しいひと時を過ごしております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年10月17日	評価機関 評価決定日	平成26年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所はJR横浜線・東急田園都市線の長津田駅から徒歩10分の小高い丘の上にある。法人はこのグループホームをはじめ小規模多機能型居宅介護やサービス付き高齢者住宅など介護事業所を多角的に経営している。事業所裏の畑はボランティアが管理しサツマイモやサトイモ、トマト、ナスなど多くの農作物が収穫できる。事業所からは線路をはさみ長津田の景色が一望できる。

【理念に基づく支援の実践】
法人設立時に社長が理念とした「まっとうな生活」ができる場所としてグループホームを作った。理念は毎朝ミーティング時に唱和し、ケアの基本としている。在宅生活をそのまま持ち込むことで、利用者の気持ちにこたえようとしている。また職員がバリデーションを習得することで、利用者の気持ちに沿うケアの実践に取り組んでいる。

【地域との連携】
見回りや町内清掃、防災訓練やバス旅行などの自治会行事に地域の一員として参加している。夏祭りや敬老会などの地域行事にも利用者と共に参加している。ボランティアの来訪も多彩で、草笛や体操、傾聴などのボランティアが定期的に来ているほか、イベント時にはマジックや楽器演奏、不定期に裏の畑の手入れやペンキ塗りのボランティアも来訪している。防災面でも近隣との交流はできている。今後は、地域の小中学校、保育園、特養との交流も目指している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム まっとう
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、毎日の朝礼で理念を唱和し共有化を図っている。また、折に触れ、理念の意義を確認し、検討している。	設立時に社長の思いを込め、今までの生活の維持を目標に「ともに自然体で生きる」を理念としている。4つの宣言とともに職員は毎朝唱和している。現場では折に触れ理念に立ち返り、話し合っている。入職時には職員ファイルに入れて渡している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練にも参加している。また、ホームでの行事に地域、近隣の方々を招待したり、ボランティアに来ていただいている。	自治会に法人として加入している。今年には特に自治会の一員として町内清掃やお祭りの設営などに積極的に参加した。地域の行事には利用者と共に参加している。地域のボランティアの来所が多く、イベントや畑の手入れなどを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前より、キャラバンメイトの資格を取得し、スタッフへの研修会を開き理解を深め、スタッフ皆が認知症サポーターとして地域に向け支援している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一度、運営推進会議を開催し、運営報告や活動状況報告をし、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。今回より場所を施設内とし、利用者様の様子を見て頂きながら、アドバイスを受ける	3か月ごとに自治会副会長、防火防災部長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催している。昨年までは近隣の地区センターで行っていたが、今年からより多くの方に現状を見てもらおうと事業所内で開催している。事業報告などを行い、ケアのアドバイスをもらうこともある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緑区の高齢者支援課の担当者に事業所の実情について報告や相談をしている。また、緑・青葉区グループホーム連絡会に加入し、区担当者からの報告を受けたり相談をしている。	区の担当者から新しい入居者を紹介してもらったり、窓口に介護保険の更新手続きに行っている。区がアドバイザーとなっている認知症カフェ開設の企画に参加している。区のグループホーム連絡会に参加し、交換研修等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修やミーティングを行い、身体拘束についての理解に努めているが、やむを得ず玄関の施錠は行っている。	フロア会議や現場では、拘束にあたる行為かどうかを確認し、職員に身体拘束廃止について理解を求めている。玄関の施錠はないが、2階のユニット入り口は施錠している。	身体拘束に関する研修会を行い、言葉による拘束や、拘束が利用者にもたらす影響などについても、職員に徹底することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングを行い、高齢者虐待防止法について学んでいる。事業所内でも、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部に参加し学ぶ機会を持つと共に、活用できるよう支援している。昨今は成年後見人制度を利用している方の相談が増えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明をし、理解、納得をしていただいている。改定等の際には、臨時家族会を開く等し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的で開催している家族会時や、ご来設の折の意見、要望には、その真意をくみ取り運営反映に向け、努力している。	4月と10月に家族会を開き、運営報告の後に自由に意見を聞いている。毎月モニタリング表を「今月のお知らせ」として、3か月毎に「まっとう通信」という広報を家族に送付している。来所時や電話での意見から、外出を増やしたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議、運営会議、個人面談等で意見や提案を聞く機会を設け、反映している。	毎月のフロア会議や朝のミーティング時に意見を聞くことが多い。情報の共有には「申し送りノート」を活用している。職員から、利用者の役割作りのため「水やり当番設置」の提案があり、この夏に実行した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法の遵守を表明し、サービス残業等が無いようにすると共に、改善意見を取り入れ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、主任から各職員のケアの実際と力量の報告を受け把握している。内外の研修には積極的に参加させ、職員を育てる取組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市のグループホーム現場研修事業等に参加し、同業者と交流の機会を持っている。また、地域のグループホーム連絡会や、キャラバンメイトに参加し交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で、不安になる気持ちを和らげるように、傾聴し寄り添い、要望をくみ取る。また、職員間で情報を共有することで、安心を確保出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを丁寧に行い、電話や面談の機会を多く持つようにし、ご家族の困りごとや要望を伺い、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、ご本人に必要なこと、ご本人の望みを見極め、医療とも連携しながら、他の社会資源の活用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であること、大変な時代を過ごしてこられた恩人であることを頭に置きながら、教えて頂くことを念頭に利用者様の現在を見守り、ケアをする。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族にも適切な情報提供を行い、共に支えていけるよう、良好な関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人、知人、師弟関係など色々な方の来訪がある。多量の要望に答えて、利用者様の満足度を感じている	地域からの利用者も多く、友人や知人の来所も多い。俳句の先生をしている利用者が事業所内で教室を開くことを支援しており、実際に弟子が来所して受講している。また入居前からのコーラス教室への参加や、年賀状・手紙を書くことも支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係や、性格を把握し、日々の生活の中、より良い関係が保てるように声掛け、見守りをし、支援に努めている。関係が良くないと感じた時は職員間で相談し、直ぐに改善を図る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族が来設されたり、手紙のやり取りや、転居された方には、電話で御様子を聞いたり、そばを通った時など、寄ることもある等、関係性を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者様の個別満足度を主においでいるので、お一人お一人の、目に見えない要望を感じとり、話を聞いて、要望に必ず答えることを約束している。	入居時アセスメントとして「私の歴史」を家族が記入し、今までの生活を大切にできるように本人に意向を聞いている。思いや意向の把握が困難な場合もバリデーションを駆使し、過去を踏まえて様子を観察することで利用者の希望をひろい出そうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族への「私の歴史」の記入依頼をしたり、聞き取りにより、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日行うラジオ体操、レク等の参加を促すが、通常でないものを感じた時は、すぐに対応する。創作や書道、絵等には個別対応し、希望に沿うようにして強制はしない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や医師、看護師の意見を参考にしながら、モニタリングを毎月行い、フロア会議等でチームで情報共有をし必要なケアについて見極めるようにしている。	カンファレンスやサービス担当者会議を開き、3か月ごとに目標を見直している。モニタリングや評価は居室担当者がチェックを行い計画作成担当者が確認し、利用者家族にも「今月のお知らせ」として送付している。診療内容報告書から医師の意見も参考にし計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から個別の記録を詳細にするよう心掛け、情報の共有に努めている。申し送り時やフロア会議時、サービス担当者会議時に話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を取り入れ、1階2階に関係なく柔軟に取り組んでいる。外出の機会も多く取り入れ、ADLに応じたサービスを提供している。。。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお祭りへの参加やボランティアの協力による活動、地区センターからの紙芝居の貸し出し利用等、楽しみのある暮らしの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医からの医療説明、薬の変更等、ご家族に伝え納得いただいている。必要時には家族と医師の面談を行い、医療方針について相談、確認をし、納得の上適切な医療を受けられるよう支援している。	全員が月に2回、協力医の診察を受けている。「診療内容報告書」に看護師が記入し、職員が情報を共有するほか家族にも報告している。耳鼻科や精神科などの専門医の受診は、原則家族対応としているが、職員が支援することもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との伝達専用の記録ファイルを用い、個々の情報を伝え、その都度相談し、その内容をスタッフに周知させている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、往診医から迅速かつ適切な入院先の紹介を受けている。また、入院中や入退院時の医師からの医療説明にはご家族と同席し、相談や情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「事前指定書」の記入を依頼し、早い段階から終末期のあり方について方針を共有している。状態の変化がみられる方に対しては医師と共に説明、相談し、その都度方針を確認している。	入居時に「重度化した場合における対応にかかる方針」として契約書18条で事業所の方針を説明している。入居後「事前指定書」でターミナル期の対応について希望を聞き取っている。実際のターミナル期には、医師とご家族の意見を聞きながらできる限りの支援を行うとしている。職員には研修を行い、振り返りシートも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、繰り返し研修、説明をしている。緊急連絡先及び連絡手順を事務所内に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防火防災部長、消防署の協力を得ながら、昼夜の防火、防災訓練を定期的に行っている。	年に2回消防署の立会いで避難訓練を行っている。訓練時には近隣の住民や自治会の防火防災部長の参加もある。AEDの使用訓練や通報訓練も行っている。備蓄は一覧表で管理され、水や防災食品、おむつやシャツなどを揃えている。	コンロや電源、ドライアイス等の備品は、非常時にすぐ使えるように、日頃から点検と使用法の確認をしておくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
ke						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての内部研修を行ったり、適切、不適切な言葉かけについて話し合い、排泄時接するよう努めている。	基本的には「〇〇さん」とさん付けで呼ぶよう指導している。生活歴を考慮し、年長者として丁寧な言葉遣いができるようミーティングや会議等で徹底している。排泄時や入室の際は特に配慮できるよう話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちを第一に考え、声掛けや質問の工夫をし、希望を伝えやすいように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やその日の状況に合わせた起床時間、食事摂取の仕方等についてその都度話し合い、情報共有しながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容の利用、日々の髭剃りや整髪、清潔な衣類の提供、行事、外出時等の洋服選択のお手伝い、気に入った装飾品の使用、希望者にはお化粧等を支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の出来る方、かたづけが出来方等本人の希望や能力に合ったお手伝いをいただいている。生活のリズムにもなって、楽しんでやられている。	利用者の状況を見て、1階は冷凍食品2階はチルド食材を利用して調理時間の短縮を図っている。利用者のお手伝いは限られているが、裏の畑の収穫物が食卓に上ることもあり、利用者の楽しみになっている。職員は利用者と同じものを食べている。外食も機会を設けて行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や必要な形状、摂取量目安は介護計画書で周知し毎日の摂取量を分かり易く記録することにより、情報共有している。好きな飲み物等を把握し、水分摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導に従い、口腔状態を把握し、毎食後一人ひとりの状態や力に合わせたブラシや口腔洗浄剤を使用しながら、必要に応じ手伝い、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンの把握に努め、スタッフ同士で声を掛け合い情報共有をし、その方の自立に向けた支援を行っている。	バリアフリーのトイレが各階2か所ずつある。2階には目の見えにくい利用者のために明るいライトがドアの上につけられ、位置がわかりやすいよう工夫されている。チェック表を活用し時間ごとに、または利用者のしぐさから判断して誘導しトイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の確認、申し送りにより一人ひとりの状態について共有し、個々に応じた飲食物や運動を働きかけている。また、医師に相談し、必要に応じて医療対応も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上は必ず入浴をする、その他に必要時には利用。予定曜日はあるが、行事や外出、体調などに合わせて、予定変更しながら支援している。	広い浴室内に両側から介護できる浴槽がある。浴室、更衣室ともエアコンデショナーがあり室温を調整している。週に2回以上は入浴できるよう、声掛けを工夫したり家族に介助をお願いしたりしている。好みのシャンプーやボディソープを持ち込む利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での安眠が確保され、その時々、お好きな時間に休まれている。寝具の清潔を心掛け、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量等について、繰り返し確認している。特に新しく処方された薬の副作用について理解し、症状の変化を記録、情報共有し、医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身の役割として、お盆拭きやカーテンの開閉、水まきを率先してされたり、レクリエーション内容を提案されたり指導している。個々の楽しみごとや気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブや地域のイベント等には、付き添いや車を出したり、平等に出掛けていただけるよう努めている。遠方にも家族等の協力を得て出掛けられるように支援している。	買い物や散歩、ベランダでの日光浴など機会あるごとに外気を浴びる努力をしている。事業所行事としてお花見やこいのぼり見学、外食などに出かけている。個別に家族とお墓参りやクルージングに出かけることもある。地域の祭礼や地区センターの催しに出かける支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあり、お金を持っていないと不安になる方には常に職員がある場所を確認しながら持って頂いている。一緒に買い物に行き、使われる時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは多く、交流は手紙を手段にしている方がおられ、投かんをお願いされる。電話はご希望時にはこちらからかけたり、つないだりしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔や整頓を心掛け、環境整備に配慮している。また、季節毎の飾りつけをしたり行事時の写真を貼って、居心地良く過ごしていただけるようにしている。	広い廊下と3方から光の入る居間は明るい。2階の廊下は天窓がありさらに明るい。玄関には花が飾られ、室内にも植物を多数飾っている。床は炭が練り込まれている特殊なパーツでできており、汚れると取り換えられる。居間から眺められる裏の畑も広く、ボランティアが管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを何箇所かに分け配置し、思い思いに過ごせるよう工夫している。キッチン前にも椅子を用意し、独りになれるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みの物を活かしている。椅子やテーブル、勉強机や植木鉢を置いたりされ居心地よく過ごせるよう工夫している。	大型空気清浄器や加湿器、ベッドやクローゼットなどが備え付けられている。利用者はテレビ、箆笥、仏壇、机などを思い思いに持ち込んでいる。室内はよく整頓され、掃除が行き届いている。日を変えて布団を天日干しするなど環境には気を付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやじゅうたんで安全な環境を工夫し、トイレや各居室は名前表示し、わかりやすくしている。		

事業所名	グループホーム まっとう
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、毎日の朝礼で理念を唱和し共有化を図っている。また、折に触れ、理念の意義を確認し、検討している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練にも参加している。また、ホームでの行事に地域、近隣の方々を招待したり、ボランティアに来ていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前より、キャラバンメイトの資格を取得し、スタッフへの研修会を開き理解を深め、スタッフ皆が認知症サポーターとして地域に向け支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一度、運営推進会議を開催し、運営報告や活動状況報告をし、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緑区の高齢者支援課の担当者に事業所の実情について報告や相談をしている。また、緑・青葉区グループホーム連絡会に加入し、区担当者からの報告を受けたり相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修やミーティングを行い、身体拘束についての理解に努めているが、やむを得ず玄関の施錠は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やミーティングを行い、高齢者虐待防止法について学んでいる。事業所内でも、虐待が見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外部に参加し学ぶ機会を持つと共に、活用できるよう支援している。実際、成年後見人制度を利用している方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ説明をし、理解、納得をしていただいている。改定等の際には、臨時家族会を開く等し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的開催している家族会時や、ご来設の折の意見、要望には、その真意をくみ取り運営反映に向け、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロア会議、運営会議、個人面談等で意見や提案を聞く機会を設け、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法の遵守を表明し、サービス残業等が無いようにすると共に、改善意見を取り入れ、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、主任から各職員のケアの実際と力量の報告を受け把握している。内外の研修には積極的に参加させ、職員を育てる取組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市のグループホーム現場研修事業等に参加し、同業者と交流の機会を持っている。また、地域のグループホーム連絡会や、キャラバンメイトに参加し交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の話を傾聴して寄り添い、慣れない環境の中での不安な気持ちを理解し、信頼関係を築いている。また、職員間で情報を共有することで、安心を確保出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを丁寧に行い、電話や面談の機会を多く持つようにし、ご家族の困りごとや要望を伺い、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に、ご本人に必要なこと、ご本人の望みを見極め、医療とも連携しながら、他の社会資源の活用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴と寄り添うことを原則として、表現出来ない内面をくみ取り、本人の訴えを感じ取る。利用者様の中では訴えることのできない方もいるので、目の動き、顔色等で要望に答える。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご家族にも適切な情報提供を行い、共に支えていけるよう、良好な関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年々減ってはきているが、親戚や、知人が訪ねてくることがある。記憶もしっかりあり、喜ばれる人もいるが、感情が表せない方もいるが、その方でも瞬間に顔がほころびる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	現状は状態に個人差がある為に、各人が孤立しないような配慮が必要です。常に職員間で連絡を密にして、状況把握と対策を話し合い一人一人のケアを細かく対応する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族が来設されたり、手紙のやり取りをし、関係性を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃からご本人やご家族から、思いや希望を聞き、言葉や表情から、意向を汲みとり、介護計画作成に反映させるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご家族への「私の歴史」の記入依頼をしたり、聞き取りにより、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションや自主的な役割分担を通し、個々の残存能力や、日々の心身の状態の把握をしている。歩く方には必ず付き添い介助をして、転倒事故を未然に防ぐ配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や医師、看護師の意見を参考にしながら、モニタリングを毎月行い、フロア会議等でチームで情報共有をし必要なケアについて見極めるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃から個別の記録を詳細にするよう心掛け、情報の共有に努めている。申し送り時やフロア会議時、サービス担当者会議時に話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況により、サービスや支援を柔軟に変更し、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が難しくなってきたり、近隣のお祭りへの参加やボランティアの協力による活動、地区センターからの紙芝居の貸し出し利用等、楽しみのある暮らしの支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医からの医療説明、薬の変更等、ご家族に伝え納得いただいている。必要時には家族と医師の面談を行い、医療方針について相談、確認をし、納得の上適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との伝達専用の記録ファイルを用い、個々の情報を伝え、その都度相談し、その内容をスタッフに周知させている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、往診医から迅速かつ適切な入院先の紹介を受けている。また、入院中や入退院時の医師からの医療説明にはご家族と同席し、相談や情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「事前指定書」の記入を依頼し、早い段階から終末期のあり方について方針を共有している。状態の変化がみられる方に対しては医師と共に説明、相談し、その都度方針を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、繰り返し研修、説明をしている。緊急連絡先及び連絡手順を事務所内に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防火防災部長、消防署の協力を得ながら、昼夜の防火、防災訓練を定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての内部研修を行ったり、適切な言葉かけについて話し合い、敬いの態度で接するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちお第一に考え、声掛けや質問の工夫をし、希望を伝えやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望やその日の状況に合わせた起床時間、食事摂取の仕方等についてその都度話し合い、情報共有しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な理美容の利用、日々の髭剃りや整髪、洋服選択のお手伝い、気に入った帽子やマフラー等の装飾品の使用等を支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時は職員も一緒にし、その日の体調や希望に合わせ、片づけをしていただいている。手伝いを楽しみにし、率先して声を掛けて下さる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や必要な形状、摂取量目安は介護計画書で周知し毎日の摂取量を分かり易く記録することにより、情報共有している。好きな飲み物等を把握し、水分摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導に従い、口腔状態を把握し、毎食後一人ひとりの状態や力に合わせたブラシや口腔洗浄剤を使用しながら、必要に応じ手伝い、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンの把握に努め、スタッフ同士で声を掛け合い情報共有をし、その方の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の確認、申し送りにより一人ひとりの状態について共有し、個々に応じた飲食物や運動を働きかけている。また、医師に相談し、必要に応じて医療対応も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上のは入浴は確保、予定日は決めているが、個々の希望やタイミングに合わせて、予定変更しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での安眠が確保され、その時々、好きな時間に休まれている。寝具の清潔を心掛け、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量等について、繰り返し確認している。特に新しく処方された薬の副作用について理解し、症状の変化を記録、情報共有し、医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身の役割として、お盆拭きやカーテンの開閉、洗濯物畳みを率先してされている。個々の楽しみごとや気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブを希望されている場合は付き添い出掛けていただけるよう努めている。遠方にも家族等の協力を得て出掛けられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持され、必要な物の購入を依頼されることがある。一緒に買い物に行かれる際、購入の手伝いの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	少なくなっているが、届いた手紙を渡したり、書かれた手紙を出す支援をしている。ご希望がある徳は、電話をされる際手助けをし、電話の取次ぎもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔や整頓を心掛け、環境整備に配慮している。また、飾りつけを工夫し季節感を感じて頂く。。室内外での排泄等にはすぐに清掃し、転倒や臭気等での不快感を取り除く。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	短期記憶、気配りや思いやり、配慮が出来なくなってきている。それぞれの居心地良い場所、気に入った椅子や隣人など、個別に対応し、変化を感じ取り、すぐ対応する。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みの物を活かしている。椅子やテーブル、勉強机や植木鉢を置いたりされ居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやじゅうたんで安全な環境を工夫し、トイレや各居室は名前表示し、わかりやすくしている。視力の弱い人にはトイレを開けて、電気の明かりで誘導している。		

目標達成計画書

事業所名 グループホームまっとう B

作成日 平成26年 12月 15日

【目標達成日】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目的達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関などの施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○身体拘束に関して何が身体拘束に当たるかの研修を職員が順番に受け、内部研修で伝承する。2階は現利用者で外出により、危険な状態になる方が1名いるので、施錠はやむ負えないが、1階は常に開放する。	○身体拘束についての内容はすぐ全職員が周知するように指導する。身体拘束の研修には1年間をかけて、沢山の職員が受けられるようにする。内部研修にもつなげる。	6月
2	35	○災害対策 火災や地震、水害等に昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 ○次のステップに向けて期待したい内容、コンロや電源、ドライアイス等の備品は、非常時にすぐ使えるように、日頃から点検しておくことを期待します。という指摘事項を頂きました。	○管理職員ですぐ再度点検して、取り出しやすいように、並べ替え、内容も点検して、全職員に申し送りました。全員が確実に認識できるように、繰り返し、伝える。 ○地域の一員としての認識を、町内会の方たちに周知して頂き、災害時はお互いに協力体制を持つように、町内会に働きかける。	○避難訓練の全員出席と毎月のフロー会議時の避難経路の確認、緊急時の対応、定期的な備品の確認等、月に一度は災害担当より全体に研修を行う。 ○地域の一員として受け入れて頂けるように、地域の行事や、清掃、レクレーションなどにも進んで参加し、良い関係を構築する。	6月

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること